

地域
活性化



東京都 JA東京中央

子ども食堂に地場産野菜を提供 都市農業の特性生かし、地域に貢献

子どもたちに居場所と温かいご飯を提供し、食を通じた地域の交流の場にもなっている子ども食堂。住民同士の交流が希薄になりがちな都市部を中心に全国に広がっています。全国のJAでは、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として子ども食堂の活動をサポートしています。特に都市部において、多くの子ども食堂に地場産野菜を提供し、都市農業の力を生かして地域に貢献しています。

JA東京中央は、子どもの孤食の解消や地域コミュニティづくりを通じて、豊かな地域社会づくりに貢献しようと、2016年から子ども食堂への食材の無償提供を始めました。今年度は、管内の大田区、世田谷区、杉並区の計30カ所(休止中含む)に地場産野菜を提供。現在はコロナ禍で3密を避けるため、活動を休止している子ども食堂もありますが、杉並区の10カ所などに地場産野菜の提供を続けています。

JAはこれまで、地区ごとにさまざまな支援を展開してきました。3月には休止した杉並区内3カ所の子ども食堂の利用者に、のらぼう菜などの地元産野菜を配布し、家庭での食事に使ってもらいました。昨年度には城



JA東京中央城西地区女性部が開いた子ども食堂「まごころ食堂」

西地区女性部が子ども食堂を開催。子ども食堂に参加する親子を対象とする農業体験も行い、地域農業との触れ合いの機会を提供しました。今後も都市部のJAだからこそ実践できる農を基にした地域とのふれあいや地域貢献を通じ、都市農業へ



杉並区の子どもたちに地場産野菜を提供

の理解の醸成につなげていきたい考えです。

JAグループは、子ども食堂の支援に取り組んでおり、全国のJAで取り組みが進んでいます。独自での開設・運営や地域の協同組合等との連携、食料支援、組合員組織(女性部や青年部)によるサポートなど地域の実態に応じて支援しています。

子ども食堂へ食材を提供しているJA数

37JA → 118JA
2018年度 2020年度

JAが食材提供した子ども食堂の利用者数

のべ約15,000人 → のべ約50,000人
2018年度 2020年度

